



## 白銀の世界で頂上かけ熱戦

雪合戦ひろしま 2017in 高野・2/4・5・11

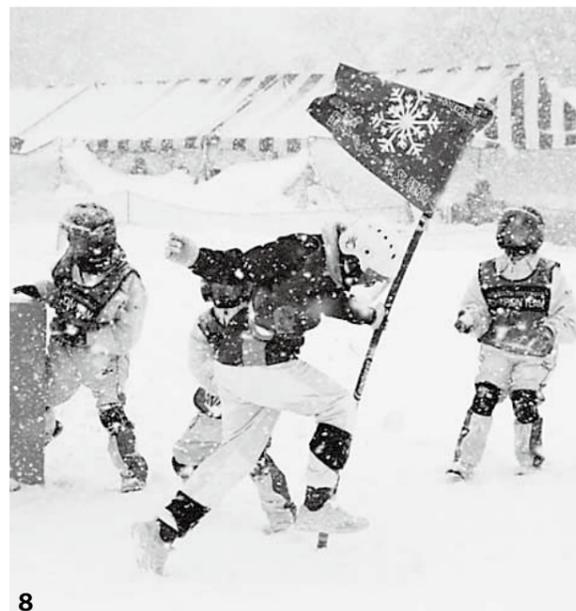
No.1



7



10



8



9



2



1



3



4



6



5

「第20回広島県雪合戦大会」が高野スポーツ広場で開催され、県内外から105チーム、選手・観客合わせて約4000人が来場しました。

20回大会を記念し、特別リーグとして全国からの招待を含む強豪チームによる「オールスターリーグ」と往年の名選手も出場する「レジェンドリーグ」が新設され、3日間にわたる熱戦が繰り広げられました。大会2日目には雨、翌週の3日目には大雪となりコートコンディションが悪い中、選手たちは雪球を投げ、かわし、相手チームのフラッグを奪い合いました。

また、大会2日目の2月5日には同会場内で「第7回鍋＆漬物グランプリ」が開催され、雪合戦大会に負けない盛り上がりを見せました。鍋グランプリには市内外から8団体が出店。スペインのバル料理「カルカムサ」をアレンジした特色のある鍋などが並び、それぞれ自慢の味を競いました。審査の結果キジ肉を野菜や蕎麦と一緒に煮込んだ「きじ鍋」を出品した初出場の「松尾きじ園（北広島町）」がグランプリを獲得。

漬物グランプリには、名人による自慢の漬物22品が出品されたうち、昨年に続き垣内純子さん（高野町）の「大根のんにく醤油漬」が頂点に輝きました。

1. 特色ある鍋が振る舞われた鍋グランプリ／2. 趣向を凝らした22品が出品された漬物グランプリ／3. 試合開始の合図を待つ／4. シェルター越しに攻め合う／5. 白熱の雪上綱引き／6. ステージを盛り上げたアラフォー女子ユニット「悪女時代」／7. ジャンプしてよけるも足にヒット／8. フラッグ奪取!?の瞬間／9. 意を決してシェルターを攻める／10. ジュニアの部決勝戦の選手紹介では選手が観客とハイタッチをしながら登場した



## 地元で貢献できる人に

職業人インタビュー・1/24

No.4

東城高校2年生の生徒が、東城町内で仕事をしている人を学校に招き、職業人インタビューを行いました。このインタビューは、進路決定を控えた2年生が、地域のいろいろな人の話を聞くことで、進路について深く考えるだけでなく、コミュニケーション能力を身につけるために、昨年度から行われています。

インタビュー中、生徒の皆さんは、逆に質問されることもあり、戸惑いながらも一生懸命考え、いろいろな刺激を受けていました。

生徒は「話を聞いて皆さんの地元への愛を強く感じた。自分も地元で貢献したいと感じ、できることは何かを考えるいい機会になった」と話していました。



▲グループごとに入れ替わりながらインタビュー

## 「どぶろく」で地域の活性化

酒類製造免許付与・2/1

No.3

庄原税務署で、市内で初となる「しょうばら どぶろく特区」を活用した酒類製造免許（酒造免許）が、高野町の種丸英清さん（農業・飲食店経営）に付与されました。種丸さんは、平成27年に広島市内で酒造研修を受け、以降、経営する飲食店の敷地内で酒造場の整備を進めてきました。今後はどぶろくを製造し、経営する飲食店で提供や販売が行われます。

「しょうばら どぶろく特区」は、国から構造改革特別区域法に定める酒税法の特例措置を受けたもので、特例措置により酒造免許を申請するためには、特区の区域内で農家民宿や農家レストラン、飲食店などを営業する農業者であることなどの要件があります。



▲免許状を手渡された種丸さん

## 雪山で自然を満喫

第17回猫山雪まつり・2/4

No.5

スノーリゾート猫山で、第17回猫山雪まつりが開催されました。雪像コンテストや雪球を投げてパネルに当てるストラックアウトゲーム、雪上バギー乗車体験、滑る速さを競うスピードガンコンテスト、餅つきなどたくさんの催しが行われたほか、庄原焼きや豚汁なども出店されました。

人気を博したのがストラックアウトゲーム。雪球を当てたパネルの数によっていろいろな景品が用意され、多くの子どもたちが挑戦していました。またこの日は、ナイター営業時や、全身コスプレの人にはリフト券が割引され、多くのスキーマーやスノーボーダーが訪れ、雪山を楽しんでいました。



▲パネルを狙って雪球を投げるストラックアウトゲーム



▲快晴のゲレンデでの催しに多くの人が参加した

## 歌って踊って地域活性化

ヒバゴン音頭 2017・1/27

No.2

「ヒバゴン音頭」がNHK 広島テレビ番組「勝手にブランド発見伝」でリニューアルされました。

「ヒバゴン音頭」は、まちの活気を取り戻そうと、森永まゆみさん（本村町）が作詞し、田辺のぼるさん（峰田町）が作曲して、平成23年6月に完成させた音頭です。今回この原曲が、番組の企画で「ヒバゴン音頭2017」として、より多くの世代に親しまれるダンスミュージックにアレンジされました。

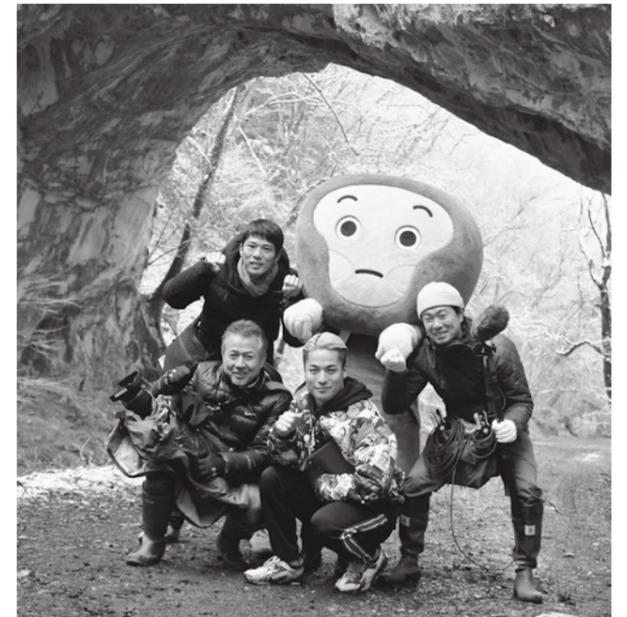
市内の子どもから大人まで、多くの市民の皆さんが踊りの練習や1月27日の生放送に参加しました。

今後、この音頭が、庄原市の地域活性化につながることを期待されます。（関連記事 30 ページ）

今回作られた「ヒバゴン音頭2017」のミュージックビデオは、NHK 広島「勝手にブランド発見伝」の番組ホームページから見ることができます。  
<http://www.nhk.or.jp/hiroshima/kbh/>



▲1月12日の練習には市内の幅広い年代の団体が参加



▲ヒバゴンは振付師のFISHBOYさん(中央)と1月13日に帝釈峡で撮影



▲庄原市役所での生放送リハーサルの様子



▲練習後の集合写真



## 元スキー場で雪遊びを楽しむ

スノーフェスタ in 口和・1/29

No.10

今回で12回目となる「スノーフェスタ in 口和」が、金尾原元スキー場で開催され、市内外から約100人が参加しました。

宮内自治会を中心に、口和町観光交流協会などが企画し、かまくら作りや雪中宝探しなどが行われました。恒例のそりすべりジャンプ大会では、子どもたちが上手にそりを操作し、みごとなジャンプを決めていました。昼食には、うどんやおでんなどが、おやつにぜんざいが振る舞われ、参加者は冷えた体を温めていました。

宮野克己実行委員長は「毎年、雪の量が心配だが、市外からの参加者も多く、今後も続けていきたい」と話していました。



▲そりを巧みに操り大ジャンプを決める

## 環境保全の第一歩

「森の教室」を3保育所で開催・1/17・18

No.9

「みどりの募金」事業などを実施している、国土緑化推進機構が主催する「森の教室」のイベントが、市内の東城保育所・峰田保育所・七塚保育所で行われ、近辺の8つの保育所の園児が参加しました。

子どもたちは、森のお姉さん、マスコットキャラクターの「どんぐりくん」や「エコロン」と森の動物の鳴き声クイズやダンスを楽しみながら、森の大切さを学びました。

参加者は、「どんぐりくん」らの登場に大興奮の様子で、最後は全員でどんぐり時きを体験し、「森の教室」出演者と、どんぐりの苗を大切に育てていくことを約束しました。



▲森の動物の鳴き声クイズに挑戦する園児（七塚保育所）

## みんなの財産を守り伝えるために

文化財防火デー（1月26日）に伴う防災訓練・1/22～26

No.11



▲大雪の中でのバケツリレー（口和町・多加意加美神社）

「第63回文化財防火デー」に伴って、市内各地で火災想定訓練が実施されました。「文化財防火デー」は、昭和24年に国宝「法隆寺金堂」の壁画が焼けて壊れたことを機に定められ、この日を中心に全国的に文化財防火運動が展開されています。

今回は、本村町の「蘇羅比古神社」、西城町の「蓮照寺」、口和町の「多加意加美神社」で実施され、地域住民によるバケツリレーや地元消防団との連携による消火活動などが行われました。また、備北地区消防組合と災害時における協定を締結している、庄原地区生コンクリート協同組合も参加し、ミキサー車による消火用水の供給訓練も実施されました。



▲建物に向かって放水（西城町・蓮照寺周辺）



▲ミキサー車による簡易水槽への補給（本村町・蘇羅比古神社周辺）

## 市民の思いを届け激励

庄原市カーブ応援隊が日南キャンプを訪問・2/5

No.6

庄原市カーブ応援隊の一行12人が、広島東洋カーブのキャンプ地である宮崎県日南市の天福球場を訪問しました。

カーブ応援隊を代表して庄原市観光協会の土井幹雄会長が「庄原市の特産品を食べて、今年も感動を！そして今年こそ日本一を！」とカーブ応援隊の熱い思いを緒方孝市監督に伝え、庄原米や比婆牛などの特産品を贈呈しました。

25年ぶりにセ・リーグ優勝し、広島だけでなく全国へ感動を与えた昨シーズンから、日本一への期待がますます高まるカーブ。ぜひ皆さんもカーブ応援隊に参加し、一緒に熱く声援を届けましょう。



▲カーブ優勝日南パレード



▲緒方監督へ比婆牛贈呈



▲日南市 天福球場の外壁



▲日南市を訪問した庄原市カーブ応援隊メンバー

## 世代間交流を通じて食の伝承

第2回伝統食講座・2/13

No.8

総領自治振興区主催の「第2回伝統食講座」が総領自治振興センターで開催され、地域の高齢者10人と総領放課後子供教室の児童11人が参加しました。この講座は、食生活が多様化する中で、郷土料理や伝統食などの食文化を大切に、次世代に伝えることを目的に開催されています。

今回は、正月の祝い納めの日「二十日正月」に食べられていた、麦飯にとろろ汁を掛けて食べる「麦飯」と大根・ニンジンなどの野菜を煮物にした「いとこ煮」を作りました。

参加者は、「二十日正月」のいわれなどについても学び、和やかな雰囲気の中で料理を楽しんでいました。



▲共同作業でとろろ芋をすりおろす

## 感謝を込めておもてなし

比和小学校 ありがとう会・2/8

No.7

比和小学校の児童が、一年間お世話になった地域の方々を学校に招待し、「ありがとう会」を開催しました。校庭樹木の剪定や課外授業、比和っ子田（田んぼ）での田植え・稲刈りの際の指導など、児童たちが学校生活を送る中でお世話になった多くの方へ、手書きの礼状を渡し、菓子と抹茶を振る舞いました。

いつもあたたかく見守ってくれている地域の方々に、「ありがとう」の気持ちを形にして伝えることのできるこの会。児童たちにとって、これからも続けていきたい大切な行事の一つとなっているようでした。



▲児童を代表して5・6年生から菓子と抹茶が振る舞われた